

学習会（ワークショップ）③

利用者の夢をかなえる協働とリスクマネジメント

■このワークショップのねらい

1人ひとりの利用者の個別的な希望や夢の中には、ボランティアの力を借りて実現することができるものもあるはず…。職員のなかにある漠然としたボランティアに対する不安を明確な形にし、どうしたら可能になるのかというリスク対策を立てることで、今まではあきらめてしまっていたことを出し合い皆で話し合うきっかけに。同時にボランティアとの協働のイメージを考える機会にします。

■スケジュール（120分）

標準的なスケジュール	分	ポイント
講義 趣旨説明と進め方 ▼	10	参加者の緊張を取る 参加型の研修であることを強調する
個人演習 利用者の夢、希望を出し合う （個人）各自で日ごろから利用者に聞いたり、思っていることを付箋紙に書き出す ▼	10	
グループ討議 ボランティアと協働できる活動を選ぶ ボランティアが単独あるいはチームで行うもの、スタッフと協働して行うものなど柔軟に。 ▼	20	「進行」と「記録・発表者」を決める
発表 どのような活動があるかを共有する ▼	10	ホワイトボードに書き出すと良い
全体討議 今回リスク分析と対策づくりを行う活動を1つ決める（参加者人数が多ければ2つ） ▼	10	なるべく多くの人に支持されたものを取り上げる
個人演習 リスクを洗い出す （個人）各自で「ここが心配」「ここが危ない」という事項を付箋紙に書き出す ▼	10	議論が進まないときには例示などのヒントが必要
グループ演習 リスクの洗い出しと対策を立てる 付箋に挙げた事項をカテゴリーで整理しながら、リスクとして挙げた項目にそれぞれ対応方法や事故予防策を考える ▼	30	対策はできるだけ具体的に 出してもらう
発表とコメント ボランティアとの具体的な協働のイメージを共有する	20	ぜひとも、実践につながるように…。

■必要な教材、備品 ～ 模造紙、付箋紙（7.5 cm×7.5 cm以上）、色マジック

研修の進め方ガイド >>>

■趣旨説明と進め方

ボランティアを受け入れ、体制を整えることは、利用者の生活が少しでも向上するように、あるいは一人ひとりの思いや希望に応えるための前向きな試みであることを話しましょう。また、それゆえに、事故やトラブルなくお互いに気持ちよくプログラムが進められるよう十分な備えが必要なことを理解しあいます。

■利用者の夢、希望を出し合う（個人演習）

必ずしも明確な言葉として発せられない夢や希望はたくさんあると思われます。入所前の生活環境や日頃のケアや支援の場面を思い出し、想像しながらできるだけ多くのことを書き出します。

付箋紙は1人につき10枚程度配付し、実現の困難さなどを考えずにどんどん書くように促します。1枚につき1つの事項を簡潔に書き入れるよう記入方法も説明しておきます。

■ボランティアと協働できる活動を選ぶ（グループ演習）

ボランティアと一緒に出来る活動を選ぶ際には「専門職が必ず支える」を念頭においた話し合いを意識します。グループの話が、ボランティアに対する偏った体験談やネガティブなイメージにもとづいて議論されている場合には、発想を狭めないような前向きな視点を提供し、アドバイスします。

■リスクの洗い出しと対策を立てる（グループ演習）

個人作業で挙げられたリスクは机に広げた模造紙の上に出し、グループのメンバーが見えるような位置に出し合います。整理するカテゴリーを何にするかはグループに任せますが、方針がなかなか決まらない場合にはヒントを出して、効率的な議論が出来るようにします。

カテゴリーの例としては、①施設側のこと、②利用者に関わること ③ボランティアに関わること、の3つに分ける方法。対策の手順によって時系列に整理する方法。問題の軽重により分類する方法、などがあります。

リスクマネジメントの研修として重きをおく場合には、①ソフトウェア、②ハードウェア、③環境 ④人 の4つの視点からリスク分析と対策を練る[SHELモデル分析]を用いる方法もあります。